

# 静私の だより



- 平成22年度定時総会報告
- 新執行体制
- 【特集/4】幼稚園の安全管理/横矢真理
- 【特集/絵本】絵本を見る目/福音館書店
- 私のあゆみ/松下文代(さゆり幼稚園)
- 健康随想(第4回)/こどものアレルギー・スギ花粉症/木村光明



NO.159  
2010 7  
SUMMER

社団法人静岡県私立幼稚園振興協会の第55回定時総会が、5月17日(月)ホテルセンチュリー静岡で、135名の会員が出席し、静岡県文化・観光部理事下山晃司様・同部私学振興課長高林孝司様をお迎えして盛大に開催されました。

総会は、相田芳久理事長の、子ども達を守り育てる固い決意をこめた挨拶で始まりました。

引き続き、教育振興に多大な功績を残されている方々への表彰に移り、県文化・観光部理事下山様からは私立学校教育振興功労知事表彰状が、又、相田理事長からは理事長・設置者・園長永年勤続表彰状が授与されると、受賞者の功績に会場から盛大な拍手が送られました。

その後、県知事のお祝辞を下山様が代読され、総会は議事に入りました。

議長となった相田理事長の進行で議事は進み、第1号議案の「平成21年度事業報告及び収支決算」、第2号議案の「役員を選任について」が原案どおり満場一致で可決されました。この役員を選任により、平成22年度、23年度の新しい役員体制が動き出すこととなります。

■相田芳久理事長の挨拶

今、幼稚園というシステムが存亡の危機に瀕しています。世の中の流れは確実に幼児一体化に向かって流れ出しており、この勢いを止めるのは大変難しいと言わざるを得ません。本協会としては「はじめに一体化の論ありき」で物事が進むことのないよう、関係各機関とも連携し、

幼稚園として提唱できる一体化への移行プランやそのあり方についても早急に研究を進める必要があるように思います。大切な子ども達の質の高い教育環境構築とその助成体系の確立を目指すためにも役員一同力を合わせて精一杯がんばってまいります。

また本年は7月末に東海北陸地区の教研大会を浜松市において実施することになっていきます。地元・浜松市の先生方を中心に、大勢の先生方のお力添えですばらしい大会にしていきたいと思っております。ご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。



■川勝平太静岡県知事の祝辞

永年にわたる私立幼稚園教育の発展への御尽力並びにその御功績により、本日、栄えある表彰を受けられました皆様方には、心からお祝い申し上げますと

もに、今後、なお一層御活躍されますことを御期待申し上げます。

さて、本県の私立幼稚園には、県内の全幼稚園児のおよそ3分の2の園児が通園しており、教育に携わる皆様方の創意工夫により、豊かな人間性や個性を育む特色ある教育が実践されておりま

す。一方、少子化の進行や働く母親の増加などにより、幼児教育を巡る、家庭や地域のニーズが多様化し、幼稚園を取り巻く環境は大きく変化しております。

県では、子育て理想郷「ふじのくに」づくりを基本理念とし、親子の笑顔がふれ、子どもたちの確かな学力、豊かな心、健やかな体をはぐくむ学びの環境を実現することとしています。

このため、幼稚園運営に大きな比重を占めます経常費助成について、今年度は、園児一人当たり約18万円、総額で73億7千万円余の予算額を確保したところであります。

また、子育て支援や障害児教育の充実を図る私立幼稚園に対する助成につきましても、昨年度を上回る予算を確保するなど、保護者の方々からの要請に、各私立幼稚園が適切に対応できますよう、財政支援の拡充を図っております。

皆様方におかれましても、子どもの健全やかな成長を支援する教育環境の実現に向けて、私立幼稚園の現場において、さらなる幼児教育の充実に向けて御尽力を賜りますよう、お願い申し上げます。

■平成22年度

私立学校教育振興功労知事表彰受賞者

学校法人 青桐学園理事長 長橋洋美  
さゆり幼稚園園長 松下文代  
焼津中央幼稚園園長 齋藤好子  
富士宮北幼稚園富士宮東幼稚園園長 山代房江

永年勤続表彰受賞者

●勤続40年以上  
学校法人 藤岡学園理事長 神尾真雅  
学校法人 相生学園理事長 寺田 惇

●勤続30年以上  
学校法人 向坂学園理事長 向坂義次  
学校法人 長橋学園理事長 長橋昌徳  
藤枝東幼稚園園長 伊村和義

●勤続10年以上  
学校法人 高洲学園理事長 岡村 恒  
学校法人 高根学園理事長 渡辺恭男





(社)静岡県私立幼稚園振興協会

理事長 相田 芳久

## 魅力あふれる幼稚園づくり

去る5月17日に行われた本振興協会理事会においてご推挙をいただき、総会を経て再び理事長職を拝命することとなりました。甚だ力不足ではありますが精一杯務めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

一期目の2年間はまさにあっという間に過ぎてしまいました。次々に押し寄せる課題に唯々遅れまいと後追いつくことばかりで、十分な動きであったかと自己採点すればまだまだ不十分、落第すれすれであったような気がします。

この2年間で今まで常識であったさまざまなことがひっくり返りました。政権しかり、事業仕分けしかり、そして教員免許更新制の今後や幼稚園の行末まで、私たちが当然のものとして受け止めていたベースがなくなつたということは非常にショッキングな出来事でした。しばらく前の時代であれば10年分に相当するような激流は、今、幼稚園を支えてきた丈夫な土台をえぐり取ろうとしています。

新しい任期の初めにあたり明るい話題、楽しい話題で颯爽とスタートを切りたいところですが、世の中の動きはどうもそれを許してはくれません。皆さんも報道等でご存知と思いますが、現政府が打ち出す子育て支援策が大きな暗雲となつて、大切な子どもたちを呑み込もうとしています。去る3月以来続けられてきた『子ども・子育て新システム検討会議』での大きな協議の柱は『すべての幼稚園・保育所を一つの形、即ち子ども園に統一する』という衝撃的な内容でした。

幼保二元化の話は以前から囁かれてはいたものの、あまりにも唐突かつ強引な作業は、明らかに若年女性の労働力確保にターゲットをしばつた厚生労働省サイドの保育サービス色が強いものでした。本誌が会員のお手元に渡るのは奇しくも参議院選挙投票直後でありましょう。すべて選挙対策とは言いませんが、予算もないのに『子ども手当』を際限なく支給したり、耳障りのよい保育サービスをちらつかせたりする現在の政治のあり方は、私には物事の本質を無視し、本当の意味での子どもへの幸せ、即ち親に濃密に育てられる子どもの権利を捻じ曲げるものように思えます。果たして7月中旬にこの会議がどんな方向性を出しているのか大変注目されます。

今期2年間はこのような流れとどう向き合っていくのかが問われる時期となるでしょう。なぜ幼稚園が大切なのか、なぜ保育所も存在しなければならないのか、どうして全ての幼稚園や保育所の看板を無理やり下ろさせて新看板をつけ直さなければならぬのか、園現場の先生方も自分の勤めている幼稚園が根本から変わるかも知れない事態を真剣に捉えて話し合ってみるべきだと思います。そして、その思いを大いに発信してほしいのです。

全日本私立幼稚園連合会が「こどもがまんなかプロジェクト」を立ち上げて2年目がスタートしています。その成果には大いに注目するものの、このような時期だからこそ中央の動きだけに頼り収穫を待つのではなく、地方から仕掛ける、市町から発信するという勢いが求められると思います。

本県でも沼津地区が続けている「おやこんぼ」は立派に市民権を得て多くのファンを生み出していますし、各地区で実施されている子育てフェアの存在も大変大きいものがあります。私たちは保育の成果やノウハウ、子どもと一体となつて生活する幸福感や充実感を自分たちの園内だけで眠らせてはいけないうです。

今年と来年2年間の全日本私立幼稚園連合会の教育研究テーマは「幼児教育の成果を社会に示そう」です。これを受けて、この七月末に浜松市で開催する東海北陸地区教育研究大会のテーマは「感じあおう子どもの実り 伝えよう幼稚園の姿」としました。これは「大会のテーマとして掲げただけでなく、今年、来年の私たち会員全体の共通テーマとする気持ちで考えました。大会実行委員会に参加した大勢の先生方の願いが込められたテーマです。

今年はこの大会の成功に全力を傾注するとともに、各委員会活動の場で日頃の園内成果、協会活動成果を大いに生かし、広げていきたいと考えています。秋には本協会の創立40周年も控えております。幼稚園の底力を示すと共に、新たな時代の流れに込め得る『より一層魅力あふれる幼稚園づくり』に向けて本協会活動を推進してまいりますのでご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成22年度  
三役・常置委員長・地区長の  
御紹介

●三役

理事長 相田芳久

焼津豊田

副理事長 千葉二道

八坂

森俊彦

河輪

田中邦昌

みのる

常務理事 大石和正

静岡聖光

●常置委員長

企画・政策委員長 小林直樹

富士中央

研修委員長 宮下友美恵

静岡豊田

広報委員長 座光寺明

龍の子

経営委員長 五藤泰弘

島田中央

地域向上委員長 藤田道信

藤田

●地区長

駿豆 山本 環

しらゆり

沼津 武田義正

耕雲寺

富士 小林直樹

富士中央

富士宮 足立二教

リーチエル

清水 千葉二道

八坂

静岡 大石和正

静岡聖光

焼津 高田路久

晝

藤枝・島田・榛原 鈴木舜光

稲葉

遠州 白井祐子

入出しらゆり

浜松 松下知弘

青葉

委員長抱負を語る

企画・政策委員会

企画・政策委員長

小林直樹



今期の企画・政策委員会では、時代の変化に対応した私立幼稚園のあり方に主眼をおきながら種々の事業を進めていきます。まずは公益法人改革への的確な対応です。振興協会は3年後までに新法人への移行が義務づけられていますが、その組織や事業の見直し作業に関して、現在プロジェクトで調査研究中です。申請までの期間は決して長くはありませんので、今期はその成果を少しずつ受けとりながら、会員のコンセンサスの構築や新法人における各委員会事業の具体的な編成に至るまで取り組んでいく必要があります。ご存知のように企画・政策委員会は、正副委員長および各常置委員長、そして相田理事長を始めとする三役の先生方を交えて成り立っていますので、その長所をいかしながら、プロジェクトからの報告や依頼に基づくこれら一連の作業を、的確に効率よく進めていきたいと考えております。

また、昨年から継続研究である私立幼稚園近未来研究プロジェクトなども通じ、今後の私立幼稚園のあり方を幅広く模索していきます。大きな波が目まぐるしく押し寄せる昨今においては、これら諸事業を展開していく中で、委員会同士がその役割を切り分けつつも、共に歩調をあわせて取り組んでいく必要があります。そんな事態に柔軟に対応するため、三役の諸先生方のお考えを伺いながら、各常置委員会の調整機関としての役割を担っていくことも企画・政策委員会の大きな使命として取り組んで参ります。

研修委員会

研修委員会委員長

宮下友美恵



平成22年度の研修委員会は、委員の人数も3名増員され、これまで以上にパワーアップしての出発となりました。

今年度も初任者研修、2年目教員研修、3年目教員研修、10年目教員研修等の経験年数に応じた基本研修を始め、子育て支援カウンセリング基礎講座、心身障がい児教育研修、園内研修研究講座等の様々な研修を計画しています。幼稚園を取り巻く環境

の変化により、私立幼稚園に求められる機能や役割が増えてきている現在、教職員一人ひとりの資質の向上をめざした研修は今まで以上に大切になってきていると思います。特に今年度は幼稚園生活の中心となる「遊び」について一度見直していき、遊びの充実につながるような研修会にしていきたいと思っています。日々の保育の質を高めていくためには園外研修だけでなく、園内研修が欠かせませんが、自分たちの課題にむかって主体的に園内研修を進めていくことはなかなか難しいという声をよく聞きます。そこで園内研修研究講座という研修会を新たに企画いたしました。各園の園内研修のあり方や進め方について学ぶ機会にしたいと思っています。

今年度新たに立ち上げたプロジェクトは「遊び再発見プロジェクト」「私立幼稚園教育の成果を社会に伝えようプロジェクト」「初任者研修検討プロジェクト」の3つです。どのプロジェクトも今の幼稚園教育にとって大変重要な課題として位置づけられるものばかりです。

これまでの静私幼の歴史の中で、多くの先生方の力によって大切に育てられてきた研修事業をより豊かなものにしていくよう、研修委員全員で精一杯取り組んでいきたいと思っています。

広報委員会・HP小委員会

広報委員会委員長

HP小委員会委員長

座光寺 明

今期の広報委員会を担当させていただきました。どうぞよろしくお願ひします。広報



委員会は県下の私立幼稚園の教育実践や私立幼稚園振興協会の活動内容を教職員をはじめ、社会に広く情報を発信伝達します。

広報誌「静私幼だより」は活動報告だけでなく、思わず微笑んでしまうような保育現場のナイスショット写真や教職員の皆様の率直な思いなどを数多く掲載したいと考えています。身近な広報誌となるよう、どうぞ皆様のご協力をお願いします。

昨今の幼稚園を取り巻く環境の変化はめまぐるしいものがあります。より正確な情報を、より早く皆様にお届けするために「情報エクスプレス」はメールやFAXでお知らせします。タイムリーな話題や情報を提供するようにしていますので、こちらもご活用下さい。

振興協会のホームページでは様々な情報を提供するように考えています。県下の私立幼稚園の紹介をはじめ、静私幼だよりバックナンバーの掲載、就職情報なども教員養成校とのホットラインを開設して急な求人对策や優秀な教職員の確保に、どうぞご活用下さい。

また教員養成校との懇談会も今年度より広報委員会の担当となりました。養成校の先生方に保育現場からのお願いをすることにも、学生が希望する幼稚園や現代の学生さん気質などについても分析して資料として提供できたらと思います。

待機児童解消のために保育園増設や幼児一体化が叫ばれている現代ですが、園児にとつて大切なのは、伸び伸びとその子らしい幼児期を過ごすことです。そのためにはさまざまな特徴ある保育を展開している私立幼稚園が良いことを訴えていく必要があると思います。そんな役目の一端を担えたらと考えています。

### 経営委員会・IT小委員会

経営委員会委員長  
IT小委員会委員長

五藤泰弘



今期の経営委員会並びにIT小委員会を担当させて頂く事になりました。委員長という大役を仰せつかりその責任の重さを感じています。幸いに経験豊富な先生方が多く両委員会におりますので、大変心強く思っております。

さて、今期の経営委員会では、トップマネージメントを担う経営者等の更なる質向上を支援する為、理事長・設置者・園長研修会を通じてこれからの幼稚園のあり方や地域に果たす役割などについて教育・経営に関する研修の場を提供していきます。さらに、今期より後継者の育成を経営委

員会が担当することになり、将来のリーダーとして活躍が期待される若い人材を対象に次世代育成の研修を展開してまいります。また、IT小委員会では、事務担当者を対象に学校法人会計セミナー、財務会計システム・給与システムセミナーの開催、そしてパワーポイント等を中心としたITセミナーの開催を予定しております。

学校評価につきましては、平成19年度からの3ヶ年計画が終わり、概ね県内私立幼稚園で学校評価が行われる体制になりましたが、評価項目の見直しを含め、各園独自の自己評価が行われるよう検討するとともに、効果的な学校関係者評価の実施について検討し、情報提供してまいりたいと考えています。

### 地域向上委員会・地震及び安全管理小委員会

地域向上委員会委員長  
地震及び安全管理小委員会委員長

藤田道信



がうごめき幼児の生活を脅かそうとしています。幼児の幸せは、親の愛と人々のふれあい豊かな環境に支えられた生活であってほしいのに、子育て支援の名の下に、魅了化された施策が人間本来の生きる力、生き抜く力、生きる喜びを削ぎ落としていくようです。我々は幼児期の教育と生活を守るべく団結し、このことを社会全体に伝えなければならぬ使命があります。その意味において、地域向上委員会は重要な役割を果たす事になりそうです。

委員が地区長であることから、各地区の実態・実情に対し情報を収集し、共有化を図り、その対応や対策を進める事が当委員会に期待される事と思います。そして時代の変化に翻弄される事無く、しっかりと私立幼稚園という箱舟を安心できる地に舵をとりなければなりません。

その為には、地区の幼稚園の団結、市町行政との連携、家庭との連携はもとより、身近な地域社会の中で子育てをしている全ての人々へ支援をしていく事が重要だと考えます。

私立幼稚園の地位向上とは、子どもの幸福と健やかな成長を第一主義に考える社会環境の構築であると信じております。今後とも当委員会の運営にご理解ご協力をお願いします。

また同委員会内、地震及び安全管理小委員会では、社会資本である幼稚園はただの箱ではなく、安全と安心の場として信頼を得る場でない限りなりません。その為、個々の園の安全危機管理の充実はもとより、地域との連携における防災防犯・保健衛生・応急対策などの取り組みについて検討し、情報等の共有化を推進していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

今、まさに、変化の渦に飲み込まれ不透明で流動的な行先に大きな不安を感じています。幼児教育行政では、幼保一体化の波

平成22年5月17日(月)、ホテルセンチュリー静岡において県内全域の私立幼稚園から201名が出席し、第42回理事長・設置者、園長合同研修会が開催されました。

第55回定時総会に続いて行われた今回の研修会は、森俊彦副理事長のあいさつで幕を開け、私立幼稚園経常費補助金の見直しについて県私学振興課 上野稔勝主査からの御説明がありました。その後、人間行動の興味深い分析を長谷川講師から、さらに国の最新の動向等を磐城講師から、それぞれ大変参考になる左記のようなテーマの講義を受けました。

## 『ヒトは共同繁殖・次世代育成の社会造りに向けて』

講師／長谷川眞理子氏

(国立大学法人 総合研究大学院大学先端科学研究科教授)

人間が人間である特徴とは何か。ヒトとチンパンジーの違いは何か。生物人類学では、霊長類の進化の過程における脳の大きさの変化が、サルとヒトを分け、木から下りて、直立二足歩行を可能にし、ヒトとなったとしている。が、なぜヒトの脳が大きくなったのか、その大きな脳で何をして



いるのかと言うと、他者の心を理解して心のやりとりをしながら、次に自分は何をすべきかを考えるからだという。

ヒトの成長の特色は、子ども、若者、老人の時期があり、子どもは他の動物と違いなかなかひとり立ちをせず、20年近くかけて大人になることである。何故かというところ、ヒトは習得すべき技術や社会的学習の量が膨大だからで、それらを教えるのは母親だけではできない。ヒトは社会全体で子育てをしており、この中でおばあさんの存在と役割も大きく、子育ては三世代共同作業である。このことからヒトは共同繁殖の動物だと分かる。複雑で難しい生活をするヒトは、情報文化と物質文化を持ち、その更新と発展による生産があるため繁殖ができる。

生産にかかわれる大人を育てるためには相互扶助が必要であり、一律の補助金

「子ども手当」より、次世代育成の社会造りに向け、ヒトが熟成できる社会構造の再構築が必要である。

## 『私立幼稚園の経営をめぐる最近の動向』

講師／磐城博司氏

(全日本私立幼稚園連合会専務理事)

私立幼稚園の課題には2つある。1つは「教育の充実」、もう1つは「経営基盤の安定」である。本日は、幼稚園財政をめぐる話を中心とする。私立幼稚園の経営をめぐる最近急浮上してきたものに



幼保一体化の問題がある。幼保に関わる問題は戦後60年ずっと言われてきたがなかなか前進しなかったものである。諸外国では様々な就学前教育が行われている例があるが幼保一体化の完成図が明確に示されていない中で急展開をしている。政権与党である民主党のマニフェストの中で幼児教育に関わるもの一つとして「幼児二元化」が掲げられている。「幼保二元化」では、縦割り行政になっている施策を一本

体化は流動的であるが、幼稚園経営に携わるものとして、幼保一体化に関わる情報収集に努め、いくつかを想定して備えておくことは大切である。

平成22年度

## 静岡県私立幼稚園PTA連合会定時総会

平成22年6月9日、例年どおりグランシップ中ホールにおいて、静岡県私立幼稚園PTA連合会定時総会が開催されました。

当日は、来賓に静岡県県民部文化学術局長宇佐美様、私学振興課長高林孝司様をお招きし、60人近い会員の参加で盛況のうちに行われました。

私立幼稚園PTA会長  
小林様のご挨拶に始まり、相談役相田芳久先生のご挨拶に続き、来賓の宇佐美様よりご祝辞を頂戴いたしました。

引き続き議事に入り、第1号議案の平成21年度事業報告及び収支決算について審議され、原案通り可決されました。また、第2号議案である平成22年度役員改選について提案があり、新たに会長に鈴木美穂様、副会長に松本知枝様、望月秀剛様、千葉道先生、また監事には山梨奈緒美様、柿野敏和先生、宮島健様が選出されました。

その後は、議長は鈴木新会長に代わり、第3号議案平成22年度事業計画案及び収支予算案について審議、承認され、総会は滞りなく終了しました。

続いて行われた記念講演では、「子育てハッピーアドバイス」～自己肯定感を育む子育てを考える～と題し

て、真生会富山病院 心療内科部長 明橋大二先生の講演が行われました。

テレビでも親しまれている先生は、タレントとの会話の紹介から入って感動的なエンディングまで、1時間30分にわたり豊富な話題で常に聴衆をひきつけていました。



子どもにとっては自分価値のある存在だと認識することが、番大切なのですが、世界的にみると日本の子どもは自己評価が際立って低いことが紹介されました。

その原因として、虐待やいじめ、人間関係の希薄な現状があること、また、その対応方法として、子どもへの接し方、ねがら

い方、ことばの返し方などを詳しく教えていただきました。印象的な「コメント」では「愛情と甘えは車の両輪」「甘えて安心感を得た子どもが自立する」「子どもは卵と同じ。締め付けすぎず、突き放しすぎず」などの指摘がありました。

講演の最後には「くまのこうちよっせんせい」という本日のテーマに沿った絵本が、楽しいスライドとともに、たくさん語り口で伝えられました。

時間の経つのも忘れさせる講演は、会場の盛大な拍手のなかで終わりました。

## ご挨拶



PTA連合会会長  
鈴木美穂

鮮やかな木々が勢いを増し、風薫る季節となりました。皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、前会長よりバトンを受け、静岡県私立幼稚園PTA連合会会長となりました。

新年度も幾分か過ぎ、新たに入園された子ども達は、園生活にも慣れ笑顔の絶えない楽しい日々を送っていると思われまます。また進級された子ども達も、これから始まる行事に期待や夢を持って一日一日を送っているものと思います。入園当初には親の後ろに隠れ恥ずかしそうにしていた子ども達が、今はお友達や先生方と元気に遊ぶ姿を見ますと、親の私達が励まされ、勇気づけられる思いです。

今一度振り返ってみますと、子ども達は本来、家庭の中で深い愛情やしつけを受けたら、地域のいろいろな人達や自然とかかわりあったりしながら、人間形成が培われると思われまます。しかし、今の子ども達を取り巻く環境は、少子化や核家族化・情報の多種多様化等により大きく変化しているのが現状です。家庭や地域での子育てに対する意識が低くなり、子育ての悩みや不安を抱えている親が増えてきている今だからこそ、家庭以外の集団での生活を通して、子どもの自立に向けた基礎が育まれる幼稚園での生活が、ますます重要になっていくと共に今後、家庭や地域、幼稚園が一体となり、より良い幼児教育を育む環境づくりが必要であると思われまます。

現在、在園する幼稚園のPTA会長並びに浜松市私立幼稚園PTA連絡協議会会長という立場である私が、今回静岡県私立幼稚園PTA連合会会長という大役を頂き、不安や緊張はありますが、子ども達と共に充実した一年間になるよう精一杯務めさせて頂きたいと思われまます。今年度の各役員、理事の方々はじめ皆様方のご理解ご協力を頂き、子ども達のためとなる良い環境づくりができるよう、会の運営を目指して行きたいと思われまます。

至らぬ点は多々あるとは思われまます、ご指導・ご協力のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

# 子どもを 事故や犯罪から 守るために



横矢 真理

NPO法人「子どもの危険回避研究所」  
(<http://www.kiken-kaihi.org>) 所長。

2児の母としての経験を生かした考現学的商品研究を始め、子どもを取り巻く危険や環境に関する研究で、商品科学研究所他より多数受賞。平成11年より、「親子で生きる力を養う」ためのサイト「子どもの危険回避研究所」を主宰・運営し、子どもに関わる事故・犯罪・暴力・健康・環境などの情報を提供し、生活安全教育の普及をライフワークとしている。著書に、『まさかの犯罪・事故からわが子どもを守る7つのルール』（講談社）、学校図書館選定図書になった『身近な危険から子どもを守る本』（大和書房）他

●問い合わせは、研究所まで

Fax: 03-6386-7467 Mail: [info@kiken-kaihi.org](mailto:info@kiken-kaihi.org)

※「幼稚園の安全管理」について、横矢先生にお聞きになりたいこと、取り上げていただきたいことなどを募集しています。振興協会事務局へメール、又はFAX等では是非お寄せください。(アドレス等は巻末に記載)

お気付きの方も多いと思いますが、残念ながら相変わらず転落事故が立て続けで起きています。自宅マンションの9階から落ちた男児は、通路の手すりまで遊んでいて誤って転落して助かりましたが、小学校の校舎3階にある図書室の窓から落ちた小1の女児は、不幸なことに亡くなりました。子どもたちは、かくれんぼや鬼ごっこをしていたこと、床から窓まで約1メートルあったが、手前に0.8メートルの本棚が置いてあったことから、事故にどうつながったか想像はできるでしょう。今までもカーテンで隠れていて、開いている窓に気が付かず寄りかかって転落した事故や、窓の横にある棚の上で落ちた例もあります。気をつけてください。しかし、9階から落ちた小4男児はなぜ助かったのでしょうか？

関係します。できることから、土にしたり、衝撃を和らげる工夫をしてください。

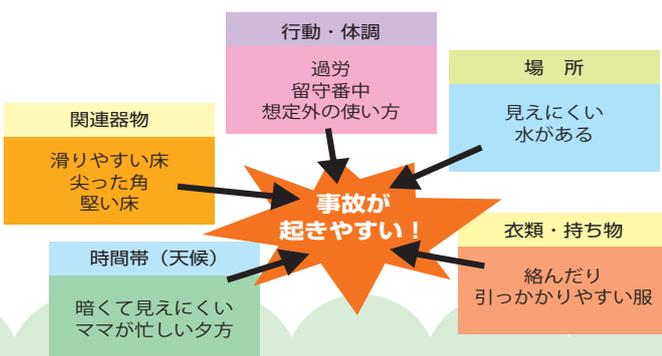
■悪条件が重なっていないかチェックして改善

堅い床は下の図の関連器物のところに列入れてありますが、他にも色々な「チェックポイント」を色違いのカードで示しています。どこにいる時も、「今、悪条件のカードは揃ってないかな？」と、ちょっとチェックしてもらえば、危険度が高くなっているなど早めに気付くことができます。例えば、滑りやすい出入り口があるという園がありました。先生方とお話していくうちに、雨の後は水がついて余計に滑る・天気が悪いと薄暗くなっている見えにくくなる・子どもの上履きが滑りやすい底のものを使っている子がいいるなどと色々な悪条件が見えてきました。それぞれについて、「いつもそこに雑巾を置いておき気づいたらすぐに拭く」など、できることを考えれば対策がとりやす

くなります。色々な方向から物事を考える癖をつけましょう。

■具体的な対策の例

①「さわってはいけません」という張り紙がしてあっても、字が読めない園児には通用しない。というご意見に対しての私のアドバイスは下記の通りです。



Pを作った貼っておきます。これは、また、文字だけであっても、そこで何度も注意をすると覚えていくでしょう。

危険な場所のチェックリストを作り、改善することや、時々どうなっているかチェックすることはとても大切なことですが、現場に書いてあれば、その都度確認できるので、すぐに改善できない場合などには特に役立つと思います。「うっかり忘れ」を無くす方法ですね。「いけません」だけではなく「ここで、こうしましょう」という肯定的な内容もあるといいでしょう。

＊お迎えの車や自転車、飛び出しやすい子ども、ハラハラした経験をお持ちの方も多いと思います。黄色い斜線を書いて、足形を書き、「ストップ」と書いた園がありました。また、門の外にある交通量の多い道路からも園があることをよく認識してもらうために、ご近所の方々と手作りの標識を作ったそうです。動物のイラストに「飛び出し注意」の文字です。

### ②壁や柱への衝突を防ぐ

堅い壁やとがった角を修繕できない場合、衝突することを考えて緩衝材を設置することができません。凝ったデザインの園で、時々ぶつかりやすい柱をみかけます。もしもぶつかっても被害が軽くてすむようにしておきましょう。よく子どもたちがぶつかる見通しの悪い場所なども確認してみてください。とりあえず気泡緩衝材（プチプチ）などを使う場合は、小さい子どもがちぎって口に



入れることがないように注意してください。

＊他に、特に衝突で注意が必要なのはガラスです。子どもがガラスが無いと錯覚して、ぶつかったり手足を突っ込まないように、シールを貼るなどしてください。ガラス衝突事故は、最悪の場合、命を失います。地震対策のために、ガラスの飛散防止フィルムを貼ることもお忘れなく。

### ③バックや帽子などを掛けるフックが目

に刺さった事故がありました。フックが使用する時だけ前に出て、それ以外の時は倒しておけるものを、よくみかけるようになりましたが、この写真は、小さな棚をフックの上につけて、衝突防止をしている様子です。（前回ご紹介した『学校施設における事故防止の留意点について』より）

先日見学した保育園では、バレエの時に持つバーのようなものを壁につけ、そのバーの壁側の側面にフックを普通と逆向けにつけていました。フックは、どうやってもどこにも刺さりません。外から見ると、ただのバーに見えるわけです。

### ■わすれん

毎日ニュースを見るたびに、ハラハラします。「また、新しいパターンの事故だ」とか「あ、この商品は改善されたはずだったのに」とか、事故のニュースを見ながら考えます。できるだけ「この商品は使っていないから関係ない」とか、「間違った使



い方をした親が悪い」と思考停止せずに、重要なポイントを探して欲しいなと思っただけです。また、子どもが直接被害にあつた商品ではなくても、子どもも使う可能性のあるものもあります。子どもが行かないと思つた場所で起きた事故が、六本木の自動回転ドアの死亡事故でした。そのあたりにも気をつけてください。

また、事故をゼロにする、ということとは不可能だということもお伝えしておかなければなりません。子どもは転倒しやすいので、何でもないとどこでも転んでケガをします。せつかく対策をとつたのにと、がっかりしたりショックを受けることもあるでしょう。でも、そうやって少しずつ良くしようという思いが、子どもたちを守るのですね。

「心配しすぎ！ 子どもは冒険させればよい」という声も多いでしょう。それはそうなのですが、だからと言って、何も対策をとらない極端な考え方にならないように注意したいものです。できるだけ冒険できるように配慮しながら、対策がとれることは、事前にとっておこう、と考えてください。バランス感覚が何より大切な気がします。

私もまだまだ学ぶことが多いなあと、つくづく感じています。連載は終わりますが、これからもどうぞ宜しくお願いいたします。



# COMMUNITY

♡コミュニティ♡

## 新しい生活を迎えて

富士ふたば幼稚園  
小塚扇帆代

「先生」と子どもたちが呼んでくれるこの職業に憧れを抱いたのは高3の春。それから夢を叶えるべく短大で保育を学び、ついにこの4月から念願の幼稚園教諭になることが出来ました。今は何もかもが新鮮で、子どもたちとの関わりの中で楽しさ反面、保育の難しさを実感しているところです。

一年目の私は級外として子どもたちと関わることになりました。4月当初は園生活に慣れず毎朝泣いて登園してきた子どもたちも、今では元気に登園してきて門から各クラスに走って向かう姿が見られるようになりました。外で遊ぶときは学年関係なく多くの子どもたちと関わる事ができるため、遊具で遊んだり、鬼ごっこで思いっきり園庭を駆け回ったりと、私自身も一緒に楽しく過ごせる時間を大切にしています。朝と帰りには送迎バスに乗っています。最近では子どもたちも私の顔と名前を覚えてくれて「みほよ先生、今日も2便乗る？一緒に帰ろうねー」と声をかけてくれるようになり、私自身も園生活に馴染めてきたことや、日々の関わりの中で少しずつ互いが成長していることで、保育者として喜びを感じられるようになって



りました。初め、何をしたらいいのか分からず多くの面で迷惑をかけてしまいました。その都度先輩方が多くのアドバイスをしてくださり、失敗をすることで学ぶことがあることを知ることができました。しかし、全体を見ながら一人ひとりを見つめ、その場で子どもへの声かけなど

自分の気づき工夫がまだまだ甘く、失敗と反省を繰り返しています。毎日、保育に対する多くの不安・緊張感を感じる事がありますが、ありません。でも幼稚園に元気に登園してくる子どもたちの期待に満ちた笑顔を見ると、マイナスイメージもやる気や活力に変わっていきます。そんな子どもたちの期待に応えられるよう、先輩方の保育を見て多くを吸収し、誰もが「楽しい！」と思える自分なりの保育にしていきたいと思えます。そしてこの職は大変なことも楽しさに変えられると気づけた今の気持ちを大切に、毎日子どもたちとたくさん遊んで一緒に成長していきたいです。

## 幼稚園教諭になって

焼津豊田幼稚園  
原田祐子

幼い頃からの夢だった幼稚園教諭になり、早一ヶ月が経ちました。私は年少のぼんだ組20名の担任を任せられました。夢だった先生になり、担任を任せられた喜びと子ども達の大切な命を預かるという責任と不安で胸がいっぱいでした。



入園当初は、大好きなお父さん、お母さんと離れ、未知の世界へ飛び込んできた子ども達は不安な気持ちでいっぱいだったことでしょう。「ママに会いたいよ」と大泣きをしている子がたくさんいました。入園当初の当たり前の光景ですが、私は「幼稚園に早く慣れてほしい」「幼稚園大好きになって、笑顔で来てほしい」という気持ちが先走り、思うように保育ができない自分にもどかしさを感じる時もありました。しかし、毎日子ども達と接していく中で、「幼稚園園って楽しい！」「先生、今日〇〇ちゃんと遊んだよ！」と、子ども達は私にたくさん話し掛けてくれるようになりました。少し慣れてきたのか笑顔の子どもが増えてきました。最初は思うように

かななかったお友達との関わりや着替えなどの生活習慣も、少しずつですが目に見えて成長してきて、とても嬉しく感じました。子ども達と一緒に生活していく中で、私は多くの事を学んでいます。「うさぎがご飯食べてる！すごーい！」「お花が咲いているよーきれい！」子ども達にとって毎日が新鮮で、感動と驚きの連続です。大人への階段を登ってきた私ですが、忘れかけていた大切な何かを覚えてもらっている気がします。子ども達の純粋な考え方を広げていくには、保育者の言葉掛けが大切だと思います。一人ひとりと向き合い、コミュニケーションやスキップをとることで、子ども達の発想も豊かになっていくと思えます。

年少児は人格形成や生活習慣の基礎を作る大事な時期です。そんな大事な時期に関われる喜びもありますが、責任は計り知れません。この貴重な一年を濃くものにするために、最善を尽くしていきたいです。未熟な私に、園の先生方にはいつも適切なアドバイスをもらい、温かく見守って頂いています。忙しい日々の中でも笑顔忘れず、子ども達と共に成長していきたいと思えます。



# COMMUNITY

♡コミュニティ♡

## 4月「思いこじり」

裾野ひかり幼稚園

竹田 佐代子

桜が舞い散る頃、今年もこの季節がやってきました。

キラキラした瞳の小さな子ども達が、期待と不安でわくわくドキドキしながら入園式を迎え、翌日からはお母さんの手を離れて幼稚園に登園してきます。初めての集団生活。当初は慣れない事がい

っぱいあつて戸惑ったり、お母さんに会いたくなくなったり、おうちへ帰りたくなつて泣いてしまつたりする事も日常茶飯事の光景です。保護者にとつても、小さな我が子を送り出す事は成長を喜ぶと共に不安や緊張もあることと思います。自分のときはどうだったかなと、ふと思い返したりします。



『○○ちゃんは泣いている顔より笑っている顔の方が、ずっとずっとかわいいよ』と言葉をかけてくれて、○○もとてもうれしかったみたいで、次の日から幼稚園へ行くのが楽しくなってきたようです。このことでした。お母さんも泣いている我が子を見ていて辛かったと思います。一日も早く

笑顔で楽しく幼稚園へ通つてほしいという気持ちだっと思ひます。

たとえどんなに小さな言葉がけでも、その子の心に響き、一歩前へ踏み出せるきっかけになったとしたらとてもうれしい事だと思ひました。

これからも子ども達の気持ちに寄り添い、一人一人が充実した園生活を送れるよう手助けして行きたいと思ひます。

私は結婚を機に、一度保育の現場から離れましたが今から8年前、11年ぶりに職場復帰しました。子ども達を取り巻く社会環境はかなり変化し、価値観について考えさせられることも多々あります。しかし、保護者や保育者の子どもの達に対する愛情や健康な成長を願う気持ちは、いつの時代も変わらないと思ひますし、信じていたのです。もう何年か前になりますが、こんな出来事がありました。

登園時によく泣いている女の子がいま

## 大きくなってうれしいね

中沢幼稚園

服部 香里

新入園児が朝のバスからおりて大泣きして「お家に帰るんだ〜！」と繰り返しています。一歩たりとも部屋に入らうとせず、靴箱の前で頑張っている子。そうかと思えば、とにかく遊びたい一心でカバンを園庭に放り出してドロドロ遊びに夢中になっている子。そんな子ども達の姿に、去年初めて3歳児を担任した頃を思い出します。



入園当初登園するとそのまますべり台に直行だったKちゃん。遊ぶのに邪魔なんでしょう、あつという間に身に着けていたものを次々にあちらこちらに落としています。降園時間になつても「靴はいらぬ、裸足で帰るの」とこんな調子。自分の物にはまるで

関心がなく、友達が見つけて拾ってきてくれるのです。私が「Kちゃん大変！Kちゃんの靴が大事にしてくれないから怒つていなくなつちやうたよ」と告げると「お散歩に行つただけだよ」とあっさり。どうしたらKちゃんが私の言葉掛けに耳を傾けてくれるのかな、と試行錯誤が続きました。

そこで「Kちゃんの靴がすべり台の下で『Kちゃんどこ？』って泣いていたよ」と声をかけると「じゃあ探しに行つてあげようか」とKちゃん。一緒に園庭に行く。「うちにもあるじゃん」と自分の物というよりも、木の実や花を見つけた遊びの様子

です。それでもその日から「Kちゃんのことってどうですか？」と私と探すようになりました。

3歳児クラスも残すところあとわずかになったある日、Kちゃんが泣きながら積み木の箱を持つて部屋の中を歩きまわっています。「どうしたの？」と聞いてみると「積み木があと一つないから片づけができないんだもん」

との返事。あんなに自分の持ち物に対して無関心だったKちゃんが沢山ある積み木の一つまで大事にしている、物を大切にする気持ちが芽生えたのだな、と改めてKちゃんの成長を感じました。

そして今。「お母さんに会いたいわって泣いているの？」と新入園児に話しかける4歳児。去年の自分の姿と重ねているのでしょうか。そつと手をつないで部屋まで連れて行つてくれる姿が仲良しだった友達よりも新入園児と遊んであげたい子。サッカーボールも「まだ小さいからやさしく蹴つてあげるんだー」など新入園児と関わりを持つてることに喜びを感じている4歳児です。

私は幼稚園で「先生」と呼ばれるようになってもう5年目。まだまだ未熟で失敗の多い「先生」ですが、幾つもの子ども達が育つていく素敵な場面に出会える充実した毎日を送っています。

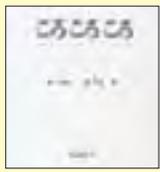
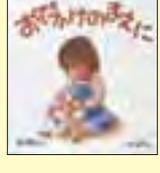
ことばには、耳から聞く「音(声)のことば」と、書かれた「文字のことば」があります。このどちらが大切かというと、「音のことば」です。子どもたちはまず、ことばを耳から聞いて、ムシヤムシヤ食べていきます。赤ちゃんから小学校に入学するまで、どんなことばを聞いて育ったかがとても重要なのです。今、子どもたちの周辺にはテレビなどの「機械語」が氾濫していますが、「機械語」では豊かなことば、心は育まれません。先生、お母さん、お父さんのあたたかい生きた「声」が必要なのです。

小学校に入学後、先生の話聞くことができないう小一プログラムが急増していますが、先生の話を受けとめる「ことばの受け皿」が育っていれば、まったく心配ありません。ことばは、様々な日常体験・遊び・物語と結びついて、必ず最後に「見える」ようになっていくのです。絵本のなかの、たくさんのことばと絵をつなぎあわせ、不思議な世界にたどりつく「想像力」は、幼児の言葉と内面の心の世界の発達にとって欠くことのできない経験です。豊かな心・想像力は、自身で問題を解決していく「生きる力」に発展していきます。

「学び」の先進国、フィンランドでは、小学校低学年を担当する先生の一番重要な仕事は、子どもたちを物語好きにする、本好きにするにすぎません。



新刊



新刊

## 優れた月刊絵本は、読み手の親に幸福感を与え、子どもにことばと心の発達を促します。

絵本はとにかく大人が子どもに読んでやる、ことが大事です。読んでやることで子どもたちは、もうひとつのことば「絵」のことばを発見することが出来ます。そして何よりも親子の信頼関係が深まります。また、絵本はどうぞ楽しんで下さい。子どもは楽しければ楽しいほど、ことばに興味をもち、勝手に自分で本を読みたくなるものです。逆に、絵本を通して文字やしつけ、道徳などを教えようとすると、子どもはほとんど本嫌い、ことば嫌いになってしまいます。

良い絵本は、子どもの視点で二年三年の年月をかけてじっくり、ゆっくりつくられています。本物の絵、本物のことばは、大人以上に子どもを捕まえて放しません。甘いキャラメルのような絵本は子どもに虫歯をつくるだけです。

行きて帰りし物語は、まさに物語の基本型です。ある所を「出発」し、様々な「失敗」を重ねて、また「安心」できる所に戻ってくる…この振り子のような体験の積み重ねで、子どもは成長していきます。

毎月の絵本が自然発生的に「遊び」や「劇」に発展することもあります。これこそ、保育の理想的な最後のかたちです。「表現すること」は、ことばと心が最後に出会う場なのかもしれません。

ポロポロになった絵本のなかには、先生やお母さん、お父さんの思い出がいっぱいつまっています。幼い頃の絵本体験は、将来、自分ひとりで世の中に羽ばたいていかなければならなくなった時、きっと大きな大きな力になってくれることでしょう。

福音館の月刊絵本「かがくのとも」は創刊500号、「こどものとも年少版」は創刊400号を迎えます。じっくりつくられた月刊絵本は、リクエストにお答えし、ハードカバー(単行本)に生まれ変わります。

### かがくのとも

#### 500号

2010年11月号  
『どこまでゆくのか?』  
五味太郎 作



五味太郎の37年前のデビュー作品『みち』(かがくのとも50号)の続編ともいえる作品。さてさて、道はどこにつながるのか? お楽しみ!

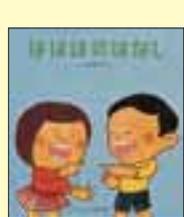
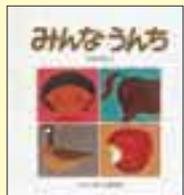
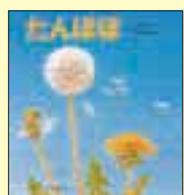
### こどものとも 年少版

#### 400号

2010年7月号  
『おかしなおかし』  
石津ちひろ 文/山村浩二 絵



お菓子たちがスイーツスポーツセンターに大集合。「ぷるぷるプリンがトランポリン」「サッカーのクッキー きせきのキック」と、3作目も楽しさ満載。お菓子の懸命な表情と、言葉遊びが絶妙にかみあった絵本。



新刊

子育て

沼津あすなろ幼稚園 父母の会長

松本 知枝

私は、中学1年の息子、小学4年の息子、年長の娘と3人の子供を持つ母親です。今年度は、末娘が幼稚園生活最後の年という節目でもあるので、幼稚園の役員に携わらせて頂きました。

昨年度は小学校のPTA役員、今年度は中学校のPTAと幼稚園の役員の兼任で、いろいろな行事や子供たちの成長の過程を拝見させて頂く機会がたくさんあります。私たちの頃と比べると、今はとても恵まれて一人ひとりが守られている時代だなと感じます。一方、さまざまな環境や



社会情勢の変化もありますが、縦のつながりや横のつながりが薄くなってきたようにも思います。「時代」という言葉で片付けてしまうのは簡単ですが、少し虚しい気持ちになります。娘の通うあすなろ幼稚園は、年長・年中・年少各2クラスずつあり園長先生をはじめ先生方がクラスに関係なく全員の名前も知り、朝は必ず子供たちを抱きしめて一日が始まります。その光景を初めて見たときは驚きましたが、幼稚園に送り出す親にとつては安心してお任せできる環境だと子供を通じて感じました。それから、「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」「ごめんねさーい」この5つの言葉の大きさを初めての集団生活で学び、その後の成長にこれらがいかに大事な言葉なのかを12年間の子育ての中で教えられました。

で今しか出来ない事に一生懸命取り組む一年間にしていきます。幼稚園のいろいろな行事を通して子供たちの記憶に残る思い出の1ページをあすなろ幼稚園全員でつくり上げ、これから始まる長い道に彩りを添えられたらいいなと思っています。

これからの保育

掛川こども園 PTA会長

中村 謙

幼稚園であり、保育園でもある幼稚園の掛川こども園が、身近に存在することを知ったのはほんの数年前のことです。あまり聞き慣れない幼稚園というコンセプトは一時期たいへんな話題となったようですが、当時は、子どももいなかったため、関心が低く、詳しいことは知りませんでした。



関です。そのためか、子どもの入園前には漠然とした不安を感じていました。いまだに漠然とした不安を感じている方もいるでしょう。おそらく、その多くは、未知のものに対する不安です。この不安を解消するには、幼稚園を理解しなければなりません。保護者の側にも学ぶ姿勢が必要ですが、私も含め、保護者の中には日常的にサービスを受ける生活に慣れてしまっただけで、自ら学ぶことに抵抗を感じる者も少なくないようです。

少し調べたところ、掛川市では平成12年に策定された「掛川市幼児教育振興計画」に基づき、幼稚園・保育園の再編計画が進められていることがわかりました。日本国内でも先進的な事例であり、計画の推進には様々な苦労があることがうかがえます。様々な自治体からの視察もあるようです。

同時に、建物が老朽化していた既存の幼稚園と保育園の統廃合が進められ、私が卒業した保育園と幼稚園が廃園となったことを知りました。寂しさはありますが、30年前と今とでは親の就労環境が大きく変化しましたし、自治体の財政事情を考えると、仕方ないことなのでしょう。当然ですが、今の保護者にとって、幼稚園は、自らが経験したことのない教育機

そのような状況の中で、掛川こども園は来年から試行的に混合学級を導入する予定だと聞きました。そのため、多くの課題を調整中だと聞いています。掛川こども園が新しい幼稚園を築いていくとする姿勢は頼もしく、きっと興味深い成果が得られるのではないかと期待しています。結果が出てくるのは先のことかもしれませんが、我が子が新しい試みを経験できないのはとても残念です。今後、数年間はこうした試行錯誤が続くと思います。新しい試みには、想定外の問題が付きものです。とくに、多くの関係者の理解を得ながら、新しい試みを進めることは、なかなか大変です。しかし、問題がわかれば、すぐに修正すればよいのです。ぜひ失敗を恐れずに、取り組んでいただきたいと思います。保護者の一人として、これからも掛川こども園の活動を支えたいと思います。

## 幼稚園教育に導かれた私の人生

学校法人かわね学園

さゆり幼稚園 園長

松下文代

あれからもう50有余年の歳月が流れたのだらうか・・・終戦(第二次大戦)からおよそ10年を経た当時、大井川の上流に位置する山深い駿河徳山の集落、その小高い丘の上の教会の傍らに佇む小さな園に私が立つたのは22歳の若輩、夢中で過ごした幼い子どもたちとの日々を回想すると数々の忘れ得ぬドラマのような出来事が頭をよぎる。

30代で一園を背負う運命にあつた私は、背負いきれないほどの数々の事に遭遇した。最初の試練は、家屋数2千にも満たない町の各集落毎に5つの町立保育所が建ち、その中でも狭い同じ集落内、目と鼻の先に私立の保育所設立に当たっては、共存のための設置位置について提案し時間を費やしての話し合も聞き入れられず体重10キロ減少の重症であつた。

その時は決心した。この逆境の故にこそ本来の幼稚園教育の本分に、自分の持てるあらゆる力を尽くしていかなければこの危機的状况を乗り越えられない、園児たちの確かな成長を願いつつ、父母や家庭に誠実に関わつて地域に必要な質の高い幼稚園教育を目指していこう・・・と固く心に誓つた。先ず、幼稚園教育は家庭と共に、父母の子育て意識を高めていくことが先決である。

直感した私は自らがゆるぎない幼児教育の専門家にならなければならぬと思つた。

「毎日、小さい子のおもりがたいへんだねえ」と乗り合わせた電車内で小学校の教師に話しかけられ、幼稚園教育は決して単におもりではないことを、降りる駅を長いこと通り越して議論した若き無謀な日もあつた。

夏休みになると、私は田中教育研究所などあちこちの講習会や研究会に自費で参加し、また書物から多くの偉大な師たちに恵まれ、知識や知恵を頂いた。

ある時はお茶の水女子大の講堂の舞台が付属幼稚園の保育室になり、園児の実際活動を参観したり、戸倉ハル一座の幼児の音楽あそび、坂本彦太郎、津守真の講義からは倉橋惣三の教えを受け、その偉大な先達の教育思想に若き私の血潮は幼児教育



の熱い情熱へと傾いていった。

子どもの歌の分野で最初に学んだ学生時代の恩師、幼児の音楽作曲家本多鉄磨は、お寺の住職であり、また幼稚園の園長で心の優しい人であつた。洗練された上品で明るい歌の旋律には、子どもを心から愛する人柄がにじみ出ている。幼児教育は子どもを愛することに始まると教えられた。「思いでのアルバム」「まだねんね」「三輪車」「おたまじゃくし」などの歌は今も私の園では50年も毎年歌い継がれている。

またある時は日本のリトミックの創始者ともいふべき天野蝶が「70歳にして人生花盛り」と舞台を蝶のように跳び舞いリトミックの意義と楽しさを情熱をもって教え伝えてくれた。幼児画や幼児の造形分野においては、宮武辰夫、ローエルフエルドの書物、林健三の書物や講演か

らは、まさに目から鱗の文字通りの驚くような開眼を経験した。「子どもの中に、神の奇跡を見る・・・」と語つたチゼックの言葉通り、私はこの年まで幼児画に魅せられ40年

余の間、今も「小さな森の美術展」を開き父母とその楽しさを共有している。

「子育ては父母と共に」の幼稚園教育の実践の中で、必要に迫られ日本カウンセラー協会の主催する養成講座に夏休みを利用して何年間か上京した。主任講師は国分康孝、後に父母への応対の基本となる大きな学びであつた。さらに交流分析の講座では、杉田峰春の豊かな実践を伴う学問から、自分自身も含めて人間の心理分析の方法と、乳幼児期の母子関係が人間形成の将来を決めてしまうということを改めて教えられ、幼児教育こそまさに人間の基礎を築く重大さをこの学問から一層確かにされた。

50年余の時を経て、はからずも今年3月、耐震の為の園舎改築落成式典と記念コンサートが多くの方々から身に余るお力添えのもとに執り行われた。コンサートを企画したのは音楽家を志し音楽活動をしながら現場を預かり幼稚園で後継者となった娘とその友達、私の力及ばなかつた音楽教育に力を注いでいる。

大自然に恵まれた川根の地で「自然と共に、自然に学び、自然に生きる」をモットーに、まれに見る小規模幼稚園ではあるが限りなく信頼を寄せてくれる園児とその父母と共に子ども達と過ごす日々は感謝に絶えない。いつの日か私を成長へと導いてくれた幼稚園生活の中のドラマのような出来事を紹介する機会があればと願いつつ書き尽くせぬ思いにかられながらここで筆を置く。

# こどものアレルギー

静岡県立こども病院アレルギー科

科長 木村光明



### 1) 幼児のスギ花粉症

子どものアレルギーといえば、アトピー性皮膚炎に食物アレルギー、気管支喘息が広く知られています。これらに比べるとスギ花粉症はなじみがたすいのではないのでしょうか？しかし、最近多くの研究者がスギ花粉症の低年齢化を報告しています。私たちが2歳ごろからスギ花粉症の症状がみられることを確認しました。

### 2) スギ花粉症の症状

スギ花粉症の症状は、鼻の場合はくしゃみや鼻水、かゆみ、鼻つまりなどです。目の場合はかゆみや涙、充血、腫れなどです。喉の不快感や痛みを訴えたり、咳がでたり、顔や体の湿疹がひどくなることもあります。一般的に低年齢の子どもの症状は軽く、成長につれ重症化する経過をとります。花粉の飛散量の影響もあり、花粉の多い年は症状も重くなります。

### 3) 検査でわかるスギ花粉症低年齢化

スギ花粉症の発生には、体の中にあるIgEというタンパク質が関わっています。スギ花粉と結合するIgEは、かつては3歳以上の子どもにしか検出されませんでした。しかし、最近では1歳でも陽性することがあり、年齢とともに陽性率は上昇します。

### 4) スギ花粉症低年齢化の原因

スギ花粉飛散量は25〜30年ほど前から

ら各地で測定されていますが、この間、一貫して増加しており、初期の2〜4倍になっています。恐らく、このようなスギ花粉飛散量の増加が、スギ花粉症低年齢化の第一の原因と考えられます。

### 5) その他の要因

居住地域の衛生環境がよいとアレルギー疾患が発生しやすくなるという説があります。良好な衛生環境とは、住居や環境の都会化、良好な栄養や健康状態、ワクチンの普及、はしかや結核などの感染症の減少などを指しています。社会が豊かになり、文明が進歩するにつれ、アレルギーのリスクを高めるといわれています。ただ、この説については賛否両論があります。

### 6) 対策

現在、全国的に花粉量の少ないスギの品種への植え替えが進行中です。静岡県も同様の事業を進めており、将来的にはスギ花粉症はなくなるかもしれません。各家庭では、スギ花粉を家庭内に持ち込まないよう工夫して下さい。

シーズン中は窓や戸を開け放しにしないこと、外出から帰った時は衣類についてた花粉を取り除くこと、洗濯物や布団はなるべく外に干さず乾燥機で乾かすことなどがそれに当たります。

個人的な対策としては、マスクが薦められます。不織布マスクは、ほぼ完全にスギ花粉の通過をブロックします。ただし、マスクの縁と顔との間に隙間がでさないよう、正しく装着しないと効果が落ちます。眼鏡も一定の防御効果があります。

### 7) 治療

#### ①内服薬

症状が軽い場合は特に治療を要しません。症状がはつきりしてくれば、まず、抗ヒスタミン薬の内服で治療を始めます。花粉症の治療は数ヶ月にわたりますので、長期に内服することを前提に、効果とともに安全性に優れた製品を選択します。その意味で、第2世代抗ヒスタミン薬を選択するのがよいでしょう。これは脳の活動を抑制する副作用が少ないという特徴があります。

#### ②点鼻・点眼薬

内服薬だけでは効果が不十分な場合は、点眼薬や点鼻薬を併用します。まず、抗ヒスタミン薬を含むものを使用しますが、重症の場合は効果の強いステロイド薬を含むものを使用します。ステロイド点鼻薬の場合はステロイド

薬がほとんど体内に吸収されず、副作用が少ないので、小児でも比較的安全に使用できます。ステロイド点眼薬は副作用のリスクが高いので、使う場合は眼科の先生にかかるのが安全です。

点鼻薬の中には血管収縮薬を主成分とするものがあります。効果は早いのですが、持続時間が短く、反復使用していると効果が落ちます。経過が長くなりそうな場合は、同時にステロイド点鼻薬もあわせて使い、血管収縮薬の方は早めに中止します。

#### ③減感作療法

減感作療法は、スギ花粉エキスを少量から皮下注射し、徐々に増量して体の免疫システムを慣らし、アレルギー症状が出ないようにするものです。数ある治療法の中で、唯一治癒させる可能性のある治療法とされています。しかし、痛い注射を何回も繰り返し、時にアナフィラキシーショック(※注)などの重い副作用がみられるので、子ども向きとは言えません。舌下減感作療法という、注射の代わりに花粉成分を口の中に垂らす治療法が現在試験中です。効果が確認されれば、子どもにも普及するでしょう。

(※注)食物や薬、ハチ刺されなどによる急性アレルギー反応。ときには呼吸困難、血圧低下などの生命にかかわるような危険な状態になることもあります。

# ナイスショット

静私幼だより

NO.159

2010.7.15



にぎやかな夏祭り



お茶つみに出かけました



シヤボン玉に入ったよ



いらっしゃいませ～



①んほでお馬さんになっちゃうぞ



わーい プール開きた



おもいっきりジャンプ!

ほくたちが育てたよ



みんなごつったよ～



とろんこ だーいあき

## 【編集後記】

まばゆいばかりに輝いていた若葉も、日ごと緑を深め落ち着きを見せてきました。

入園した頃には、泣いてばかりいた子供達も新しいお友だちとみんなで遊べるようになり、園庭にはにぎやかな声が響いています。

さて、今年度初めて広報委員を担当させていただくことになりました。なれない仕事で戸惑うことも多く、足手まといになりそうですが新鮮な気持ちで「一生懸命」を目標に掲げて頑張っていきたいと思います。

広報委員／焼津中央幼稚園 吉田一夫

(表紙写真／ちどり幼稚園)

発行人／相田芳久  
編集人／座光寺 明  
広報委員会

発行所／静岡県私立幼稚園振興協会  
〒420-0853  
静岡市葵区追手町9番26号  
静岡県私学会館内

http://www.shizushiyou.or.jp/  
E mail: office@shizushiyou.or.jp

TEL.054(254)6820-FAX.(255)3694

印刷／(株)三創 レイアウト／イラスト／村松麗子



このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。